令和八年度　隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題　鶯（うくひす）

入賞歌

隠岐後鳥羽院和歌大賞

谷の戸をとぢし氷もうちとけて里なれ初むる鶯の声

福岡県　緒方　翔馬

選者賞　冷泉　渚　選

軒近き花散る枝を木傳ひてちきりたかへす來鳴くうくひす

東京都　中嶋　康夫

公益財団法人　冷泉家時雨亭文庫賞

梅の香のしるへたよりに枝つたふまた里慣れぬうくひすの声

東京都　古賀　のり子

水無瀬神宮賞

紅葉葉をとちし氷もうちとけてさへつり初むる鶯の声

埼玉県　関口　祐未

出雲大社賞

雪間よりにほふ白梅しるべにて去年の宿訪ふうぐひすの声

京都府　若松　早穂子

令和八年度　隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題　鶯（うくひす）

入賞歌

大阪天満宮賞

うぐひすの涙もとけて谷川に氷いはばしる春は来にけり

東京都　梶間　和歌

住吉大社賞

梅香る東雲の空明けゆきて静けき里にうくひすの鳴く

滋賀県　松岡　寿子

城南宮　鳥羽殿賞

梅ヶ香のしるへ頼りにうくひすの来鳴きうつろふ春の山里

長崎県　芦塚　寿重

海士町長賞

うくひすのこゑに目さむる島守の夢なほさめぬ春のあけぼの

宮城県　照井　夕佳詩

隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞

谷を出てしは鳴く音色うくひすは軒端の梅と春を言祝く

滋賀県　西田　榮子

令和八年度　隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題　鶯（うくひす）

入選歌

朝戸出の梅か香うつる旅衣山路をつたふ鶯の声
東京都　阿久津　ひろみ

朝霞ほのかに匂ふ梅枝を訪ねて園に鶯の鳴く
茨城県　宮本　保

さへつりのまたつたなきうくひすははちらひ隠る梅の花かけ
大阪府　南口　一二美

住みかへし寝覚めの床をおとなふは山辺の清きうくひすのこゑ
福岡県　安永　祐司

うくひすのさへつる声を先立てていくへも霞む春のみやま路
広島県　河上　律子

春たては霞の間より鶯の初音こほるる朝の山里
京都府　小林　賢太

まだ雪の残れる庭の梅が枝にうくひす鳴きて春をしるらむ
京都府　松原　勝子

春されは谷の戸いつる鶯の声またしふき初音聞こゆる
兵庫県　唐澤　まちこ

雪残る里に通ひて鶯の一声鳴きて春を届けむ
兵庫県　濵﨑　要子

朝日さす軒端の梅の淡雪のとけゆくに染む鶯の声
宮城県　森田　純一

鶯の初音を聞けは山里のみ雪も消えて霞たなひく
神奈川県　横山　隆行

令和八年度　隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題　鶯（うくひす）

入選歌

風そよぎ梅の香しるべの鶯の移ろひ鳴く声華やぎの春
大阪府　足立　慶子

鶯はいつしか鳴かむ朝影に軒の垂氷はとけむとぞする
東京都　千幡　初風

山里に春の戸あくるうくいすの初音をさそふけふの梅か香
京都府　小林　なお子

里遠きわびしき賤が軒端にも春や来ぬらむ鶯ぞ鳴く
北海道　澪　標

暮れてゆく春の夕べの山里の梢にのこる鶯の声
兵庫県　岡田　優志

雨晴れて緑まふしきこの朝谷間に響くうくいすの声
新潟県　渡辺　由季

春立ちて霞たなひく四方の峰遠く近くにうくひすの声
東京都　斉藤　典子

梅の花吹く春風にかおりたちうくひすの声霞の内に
東京都　徳井　まさ

うぐひすの声まだ遥か東風吹けばいまこそにほへわが庵の梅
福島県　七篠　龍也

春来ぬと梅の鶯さへづればひとくひとくと胸に染み入る
北海道　西井　健治

たちまよふ霞のうちに散る花を惜しむや鶯なきわたりつつ
神奈川県　海　螢

令和八年度　隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題　鶯（うくひす）

入選歌

春かけて都へ出つるうくひすは雪の谷辺も愛しと鳴くらむ
東京都　加藤　良子

山里に空さやかなる音すなり梢の春はうぐひすの声
千葉県　山　翠

わたり来し初音うくひす梅か枝に隠岐の里にも春の風ふく
滋賀県　山﨑　昇

谷辺より若き声して梅が香にむせぶうぐひす春来にけらし
東京都　吉田　裕子

み熊野の古き社に詣づればうぐひすのこゑ峰に渡れる
東京都　島津　洋隆

雪なから挿頭にさせる梅の花春を慕ひてうくひすの鳴く
埼玉県　山中　逸平

ありあけの隠岐の海へと漕ぎ出でて漁すれば鶯の声
東京都　嶋田　恵一

飛梅に鳴きてうつろふ鶯の声もさひしき都そ偲はる
奈良県　坂本　佐代子

梅の香をたよりにかへる鶯の雪間の枝に初音こぼるる
東京都　小林　和歌子

淡雪のとけし古枝にうくひすのなきて移ろふ梅か香しるへに
長崎県　宇野　聰子

令和八年度の大会では、全国より４０４首のご応募をいただきました。誠にありがとうございました。
受賞された皆さま、心よりお祝い申し上げます。